



No.4
2007.12.20

編集・発行

社会福祉法人笠岡市社会福祉協議会広報委員会
笠岡市美原3-2-11 TEL.0296-77-0730
E-mail info@kasama-syakyo.jp
U R L http://www.kasama-syakyo.jp/

かさま

社協だより



岩間公民館グラウンドにて福祉バザーの開催

も く じ

- | | | | |
|-----------------------------|-----|----------------|-----|
| ① これからの社協 -局長・支所長は語る- | 2～3 | ④ みんなの広場 | 8～9 |
| ② 事業の統一化にむけて | 4～5 | ⑤ お知らせ | 10 |
| ③ 支所だより | 6～7 | | |

らの社協」

所長は語る～

去る11月1日、合併前の笠間・友部・岩間社協でご活躍されていた新任の事務局長及び各支所長とインタビュ形式による質疑応答が行われました。旧社協で実施されていたさまざまな活動のよさを活かしながら、合併後の各支所が連携を保ち、新たな社協として発足し、1年余を経過しました。しかし異なった家庭が1か所で生活するためには、さまざまな問題を克服していかなければならないことが、浮彫りにされました。

新任地での感想は



笠間市
社会福祉協議会
事務局長
石井 善昭

統合した当初は支所間に違いがあったが、職員間にも一つの社協にまとめようという意欲が芽生えてきている。しかし、180人の職員をまとめ、協力体制を確立するには、3～5年の年月がかかるのではと覚悟している。職員の皆さんには、各種の研修などを通して結束をうながしていきたい。格差調整が大変であるが、これからはせいぜいばい頑張っていくつもりである。



友部支所長
福田 秀樹

民間から転入したので、社協の事業が多いのは驚いた。このようなことは、分からない人が多くいると思うので、広報活動を通して周知させていくことが大切だと思う。友部支所は、これまでの実績があり、お膳立てができていたので、今まで行っている活動を



笠間支所長
小曾 栄子

笠間支所長として着任し、はじめて支所長になったことを実感した。笠間支所は、活動範囲が広く地域も分らず大変ですが、頑張っていきたい。笠間にも「バキスタン支援事業」「やさしい焼物づくり」など、よい事業もたくさんあるので、福祉の芽を更に伸ばしていきたい。



岩間支所長
小池 和夫

群馬に生まれ育ち、茨城に来たが、地域でのスポーツを通して仲間づくりをしながら育てられきたと思う。三支所の連携によって人間づくり・ふれあいづくり・地域づくりを進めていきたい。そして、誰にとって必要な事業なのかをよく吟味し、守るものは何なのかを見極めながら事業を展開していきたい。

特別委員会とは

合併後、地域ごとの実施事業について統一化を図る目的で、「特別委員会」が設置され、組織体制及び事務事業の全般にわたって検討し、改善の提案をすることを目指す。

合併後、事業の統一化について特別委員会で検討された内容の、進捗状況と情報公開についての考え方を話し下さい。

石井事務局長

特別委員会は、今年4月に設置され会長から諮問を受け、住民の代表である理事・評議員・監事にて検討を重ね、10月に検討を終了し、11月下旬会長に答申いたしました。(4～5ページ参照)

答申の中で、実施可能なものについては、平成20年度より事業に反映されればと考えています。また、検討内容の公開につきましても、社協の広報紙を活用するとか、行政区の総会・支部代議員会等の集会にこちらから出かけて、お話しをしていきたいと思っています。

岩間・友部・笠間の社協が合併して1年が経過しましたが、どのような効果と弊害がありますか

笠間支所長

人口の密集地と遠隔地での福祉のあり方・及び広い面積と移動する距離が長く(別表参照)対応するのに時間がかかるなど課題があります。

このようななかで、ミニデイサービス・地域ボランティアによる弁当の宅配サービスなど支所特有の事業を展開しております。また、陶磁器のユニバーサルデザイン活動や高齢者に優しい「まちづくり」などのグループもありますが、地区などのサービスを同じ水準にするには、時間がかかりそうです。

別表

笠間市の概要	
面積	約260km ²
東西の距離	約20km
南北の距離	約25km
50歳以上の人口	5人に1人(約21%)

友部支所長

ボランティアやヘルパーが相互に交流していますので、お互いにノウハウ(技術的知識・こづ)が身につくようになってきており、新たな視点で福祉を見直すことができると思っています。



説明する事務局長等

特集

「これが

～局長・支

岩間支所長
担当の手作り・宅配サービス、
祭事の福豆配りなど支所特有の
事業を展開しています。
しかし、年々高齢化が進んで
いく今日、社協だけでは十分な
サービスができていくにつれて
ることが想定され、市民（公営）



熱心に説明を聞いている広報委員たち

の協力が不可欠になります。



ボランティアの育成と募集につ
いて

岩間支所長

岩間地区には22サークルが活動しております。男の料理教室を修了した方たちで結成された食事作りサークルもあります。また3歳ヘルパー養成講座も行われ、そのなかからボランティアを希望された方もおります。ボランティアサークルがボランティア育成講座の受講になってくれればと思っております。

友部支所長

後継者づくりの入口は講座の開設にあると思います。そして講座への参加をふやす努力が必要だと思います。

普間支所長

講座は自転車でも気軽に行けるような場所であればならな
いと思います。

ボランティアサークルと地域との
ふれあい及び活動について

石井事務局長

配食サービス等をきつかけに、
形は違っているがボランティア

の持てる力を生かして、小さな
ことからでも良いから継続的に
行っていくことが望まれます。

住民の方はボランティア活動
の実態を理解していないことが
多いし、また身の廻りに必要な
こととわかっていない人が多い。
皆さんにそれをどうやって呼び
かけていくか、時間と心とお金
をみつめて実状を知ることが、
それに沿っていくことが大切で
す。

ボラ講座については、地域に
的を得た講座を開かなければな
らないと思います。

ボランティアセンターについ
ては、行政の検討委員会で行っ
ているので、今あるものを利用
していけばよいでしょう。

新たに発足した近岡市社協は、
住民一人一人が社協活動の理解
を深め、手を携え合って築き上
げていくものだと思います。

一本の大きな樹木は、長い年
月をかけて四万八千に根を張り、
太い枝を伸ばしながら育ちます。
私たちは、その根となって社協
と暮らす樹木を育てましょう。

(海老澤・村尾・入江・山田・
強口・久保田・金井・岡・平本・
鶴田・小野・皆塚・吹野)

事業の統一化にむけて

― 答申書提出される ―

今年3月に事業検討特別委員会（総務・地域第1・第2・介護）を設置し、4月に社協会長から事務事業等15項目について諮問を受け、住民の代表である理事・評議員・監事により審議されました。

審議に当り「1. 本会の目的

としている事業であるか、2. 公共性、公平性及び平等性が確保されているか、3. 市民のニーズを的確にとらえているか」等に留意し25回にわたる審議を終了し、11月の下旬に社協会長に答申されました。

総務特別委員会

●福祉バスの運行に関すること

・バスの車両任意保険加入のほかに傷害保険の加入は、利用者側が必要に応じ加入することとし、ボランティア保険に加入しているものは、ボランティア保険で対応できる。

・市のバス運行規程を参考にし、福祉バス運行要綱を定め、本会の事業及び本会の事業に関わ

る団体の事業に対して運行することとする。

・運行回数の増加が予想されるので臨時職員を採用し、各事業に対応する。

・平成19年第1回理事会、評議員会の決定により実施されている。

●会員会費に関すること

・一般会費の1戸あたりの額は、3地区ともさほど大きな差がないので、友部地区の19年度の集まり状況をみながら、支部運営委員会や区長会と調整をし、3年以内に一般会費を100円以上に統一する。

・社協そのものが、市民の理解と認識を得られるよう努める必要がある。

・審議未了のため、総務部に審議を引き継ぐ。

●生活福祉資金、小口貸付事業に関すること

・生活福祉資金は、国及び県の事業なので市社協としては継続していく。

・小口貸付の貸付金が少なくな

った場合は、現物支給の方法もある。

・滞納者に返済を極力よく促す。

●指定管理に関すること

・「いこいの家（はなさか）」は福祉施設、または観光施設とするかの判断もあるが、現段階では福祉施設としてとらえ、今回も継続して指定を申請する。

・福祉センター「いわま」は、修理を必要としている箇所があり老朽化が進んでいる。将来的には存続について市と協議が必要であるが、現段階では指定を継続して申請する方向とする。

・福祉会館は活動の拠点であり、また、心身障害者福祉センター及び福祉センターは社協の本務でもあるので継続して申請する。

●組織体制に関すること

・将来的に本所と友部支所を一本化するにしても現時点では、支所の果たす役割が大きいことから、すぐに一本化するのには好ましくない。状況に応じた組織の見直しを図ることが必要である。

・介護事業に関しても会計の分離等の検討を進めることが望ましい。

●共同募金配分に関すること

・合併している団体については、助成金の額を統一する。

・学校関係の助成は教育委員会と協議するとともに、額も多くはないので、学校規模に係るなく統一して助成する。

・助成の使途に關し計画書・報告書の提出を求める。

・助成金額を事務局案で提示し、共同募金配分委員会に審議を引き継ぐ。

地域福祉第1特別委員会

●給食・配食サービスに関すること

・行政は給食サービス事業とボランティア活動の意義や目的を理解し、ボランティアが安心安全に給食活動ができるよう継続した事業費が求められる。

・行政と社協間の事業調整には、ボランティアの意見を取り入れるよう配慮すべきである。

・今後、配食サービス対象者は増加することを考慮すべきであろう。

・行政は給食を媒体として給食サービス事業の目的を安否確認・ふれあいとしているが、事業評

価はされているのだろうか。

・対象者一人当たりの年間委託費を定め、各支所へ配分し事業内容を一任する方策も一考かと思われる。

●ボランティア積立金及び養成講座に関すること

・ボランティア積立金については、ボランティアの自主性を尊重し、3支所のボランティアで十分検討し有効に活用すること。

・各支所にボランティアセンターを設置し、ボランティア担当職員・ボランティア連絡協議会等の役割を明確にし、ボランティア研修や啓発啓蒙に努力すること。

・ボランティア講座や福祉講座の実施については、今後也十分検討し継続実施のこと。

・講座は、より多くの方の参加が図れるよう社協独自の啓発方法を検討し進めること。

・ボランティア活動に対する市補助金については、補助内容を明確にすること。

●在宅サービス事業に関すること

・支所によって事業システムに違いはあるが、協力会員の活動意欲に支えられ取り組まれている事業である。今後は経過を見ながら徐々にシステムの統一を

だより

心強く楽しい

合併後1年余の歩みの中で、各支所の活動が見えてきました。異なる地域特性に適性化した活動をする各支所や、外出する機会の少ない高齢者に、楽しみと心のリフレッシュの場として合同茶話会を実施した友部支所。一方地域住民のかかわり方も多様になってきたので、地区懇談会を開催し、事業への理解を深めた若間支所を紹介します。

笠間支所

世代間交流を目指した活動 地区社協スタート



地区社協とは、各地域にお住まいの皆様一人ひとりが、その福祉課題を地域全体の課題としてとらえ、その解決に向けた取り組みを地域で行う活動基盤が地区社協です。

その中で、笠間地域において積極的に活動を展開し、とても個性的な「まなだけ」と「こゆう会」を紹介します。

これらの団体は「はんどちゃんネットワーク運動助成事業」制度を活用した団体です。「こゆう会」は市街地（笠間市荒町地区）を拠点に活動し「まな



だけ会」は山村部（笠間市上加賀田地区）という異なる地域で活動する団体ですが、そのテーマは「世代間交流を目指した寄り合いづくり」という同じ目的として活動しています。

この団体の特筆すべき点は、同じ目的を掲げながら市街地と山村部という異なる地域特性に適性化した活動をし、その地域の住民が自ら課題を見つけ、その解決のための自発的な行動が出发点となり、社協笠間支所が

友部支所

北川根支部 楽しい茶話会

バックアップしたという成り立ちに見ることが出来ます。地域の方々の自発的な活動が地区社協の機能を果たすケースは、とても貴重なことであり、活動に興味のある方は、お気軽に社協にご相談ください。

地域住民が自ら問題を提起し解決することが重要であるという



ソフト輪投げを楽しむ

市立北川根小学校区（27行政区）で、地域福祉のさまざまな活動を展開している社協北川根支部の楽しい「茶和会」について紹介します。

地区別茶和会……平成7年に「お茶のみ会」として発足したコミュニケーション作りの場が継承され、各地区ごとに開催されるようになりました。農閑期等を利用して、各地区の集落センター・集会所等に高齢者が集まり（不定期）、健康チェック・寸劇等による交通安全指導・講話やゲーム等（内容は地区によって異なる）を楽しみ、支部女性部員が心を込めて準備した食卓を囲んで、高齢者相互のコミ



支所

仲間がいれば

岩間支所

地区別懇談会

合併して笠間市となり1年が過ぎ、岩間地区住民の皆さまに社会福祉協議会の事業をより深く理解して頂くことを目的に、10月21日・11月21日の間に、18か所の公民館で地区懇談会を開催しました。

社協職員により、社協の事業内容や会員会費、共同募金の統一、支所社協設立についての説明があり、住民の皆さまから次のような質問や要望が出されました。

Q「社協は市役所の機関ではないのか」

A「地域の福祉活動を推進する民間の組織です」

Q「いつ頃から歳末助け合いの募金額が変わりますか」

A「今年度より目標額として、300円から500円に上げて頂きたいと思っています。増額分は、地域の福祉活動のために役立てたいと思います」

Q「心配ごと相談は、秘密厳守しているのか」

A「必ず厳守しています」



皆さまから寄せられた貴重な意見を今後の社協活動に活かす、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指し、社協が皆さまのより身近な存在となるよう努力いたします。

また、地区での集まりなどの際には、事業説明などに伺いますので、社協まで連絡をお願いいたします。

これからも皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(強口)



元気に体操も…

では補い得ない部分をカバーする活動として、平成14年に福祉バスを利用した外出型茶和会を合同茶和会として実施しました。

合同茶和会……第1回・第2回は、試行的にさくら市の「ハートピア喜連川」・古河市の「トモエ乳業」見学等を実施しました。しかし時間的にハードだったことから、第3回目以降は近隣の国民宿舎（つくばね・水

郷・鶴の岬・いこいの村蒲沼等）を利用し、行程に要する時間を短縮し、買い物を楽しんだり、宿舎での歓談に十分な時間を費やすことが出来るようになりました。

参加人員の多い時は、1グループでバス2台を要した時もありましたが、年平均3グループで130人から150人（介助の女性部員・役員を含む）で推移しております。

96歳の父親に付き添って参加された方は、「つきそいも快く認めてくださいます、ありがとございました。父も大勢の方に声をかけられ、なつかしい人たちに会えることができたことを、大変よろこんでおりました」と感想を述べていました。

(皆塚)

人と人とがおいに信頼し合う//おたがいさま//の関係がなくなつた地域社会では、人はけつして幸せに暮らすことはできないでしょう。

ボランティアの裾野を広げ、助け合いの精神を地域にどう生かすか、みなさんで考えてみようではありませんか。

日々の暮らしを大切に

小原 吹野 聡



冷蔵庫のと
びらに「食
バランスガ
イ」が張って
ある。「二日に何をどれだけ食
べたらよいか」の目安を横目で
見ながら、手にしたサツマイモ
を眺め、これをどう料理するか
と思いを巡らしていた。

窓の外に目をやるとジョギン
グに汗を流している人の姿が見
え、ガあつガと何かにあせ
りを感じながら気付く。飽食
の時代といわれ、バイキング・
食べ放題などの活字がおどろ
食のほんらん、食生活の乱れな
どに対する厳しい実状が取りさ
たされている今日。

自分の生活を振り返ると車社
会に慣れ、忙しい毎日を送り、
加えて不規則な食事時間等、ス
トレス社会に身を置くことの多
い日々で、運動不足は言うに及
ばず。

「メタボリックシンドローム」
なる言葉を耳にする機会が増え
てきた。別名「内臓脂肪症候群」
とも呼ばれ内臓脂肪の蓄積によ

って、血糖・脂質・血圧に異常
をきたすことで、最終的には心
筋梗塞や脳梗塞などの血管病が
起こりやすくなる状態をさす。
内臓脂肪を減らすポイントとは、
生活習慣を見直すことがいちば
んど、自分に言いさかせる。

周りをみると、人間ドックや
住民健診の受診、そして自ら情
報を求めて健康を維持していこ
うとする、「セルフメディケー
ション」の考え方も浸透しつづ
ある。

人は誰も「ピンピンコロリ」
を望み、そのために知恵を絞る
ことができる。日常生活は便利
になったが欲求は限りなく、そ
れがエスカレートすればするほ
ど悪循環をひきおこす。しかし
人間は工夫もし、英知もある。
以前耳にした言葉に『ほとほ
どに不自由さを残すのが人間工
学』を思い出す。深い意味あい
に感銘を受けると共に、日々の
生活を見直し、いかに充実させ
るかという宿題に取り組んでい
かなければと思うこの頃である。

第23回「小さな親切」はがきキャンペーンで

大月 裕美さん(稲田在住) 「優秀賞」を受賞

この作品は、ある福祉施設に
ボランティアで訪問した際に、
なにげない親切を受け、これを
はがきで応募し、社団法人「小
さな親切」運動本部より優秀賞
を受賞されました。誠にめで
たうございます。

小さな親切がなにげなく行わ
れそれが地域社会全体に広がっ
ていくことを心から願っています。



真夏の空から大粒の雨が突然/バ/バ/と大きな音をたてて落ちてきました。

思わず窓の外に目をやる園生たち…。既読ボランティアで市内のある施設に出かけていた2年前の夏
の日の午後のことでした。

終了後、食堂で園生たちとおやつを頂いている間も雨は降り続き、車の中に傘を置いてきたことを悔
やみながら「走ればいいか…」と皆に別れを告げて玄関を出ました。

すると雨の中、玄関先に傘をさした0君が一人でポツンと立っているのです。

「どうしたの？」という問いかけの趣意をこめて首をかしげると私は、彼はニコッと笑ってその傘をさ
しかけてくれました。そして相合傘で車まで送ってくれたのでした。

我が子と同年代の0君とは、彼が小学生の頃からの10数年のおつきあい。

彼には、私の声は聞こえていません。

彼の言葉も聞くことはできません。

でも、会った時にはいつも、身ぶり手ぶりで、豊かな表情で私を和ませてくれます。

「ありがとうね！」お礼を言って車に乗りふとみると、彼は私の車に向かっていつまでも手を振って
くれました。

親元を離れて園生活を送る彼の、親孝行のような優しさがつ〜んと心に染みて、ハンドルを握った目
の前の景色がほんやりにじみました……。

健康人

地域の伝統文化伝承に

生きがいを求めて



下安部
高瀬 勉さん

今回は、市の無形文化財の候補にあがっている灯籠念仏の伝承に中核として活動されている高瀬勉さん（87歳）のご投稿を紹介致します。

私たちの地区には、平安の時代より灯籠念仏なる伝統行事が行われていました。太鼓・鼓・笛などをもち、多くの念仏衆が、高灯籠の下にいない、菩提寺である妙行院を初め、当地方の多年にわたる念仏道場として栄えた千日堂などで、新佛の霊を二年間にわたり慰さめ供養を祈る、当時としては極めて豪華な行事でした。

戦後、行事の主役である青年の多くを失い中断を止むなきにいたりましたが、歴代館長初め多くの方々の努力により、復活の兆しに恵まれ、保存の道を歩き始めました。特に笛の妙手が三名ほど確保されましたので、これから、婦人・少年の手が確



保できれば将来が大きく期待できると思われます。

灯籠念仏の練習を兼ねた実地前の二十日間ほどの合同練習は、長い間地区に果された古来の功勞を偲びながら、念仏の内容や節の高低などを学び、今昔の苦勞を重ね合わせることに、いつしか念仏の心にもふれてゆき

みんな

ます。これが本当の念仏の「心」と申すべきものでしょうか。

今の私の一番の楽しみは、さそわれて数年前よりカラオケ塾に入り、週二回のカラオケの日を心から楽しんでいることです。おかげさまで毎日を充実してすごしております。

これからも地域文化の伝承にご活躍されますことを祈念いたします。



熟年PCクラブ

下 郷 外岡 勇



最近「パソコン教室」が、世で開かれて

いる。我等が配食配達グループ「四葉のクロバー」でも、パソコンをやらないかと言う話が持ち上がり、たちまち六人ほどの賛同者が集まった。それと言うのもグループの中にパソコンの先生が居たからである。

名称も「熟年PCクラブ」と

決まり、岩間公民館で毎週土曜日の十三時三十分から開講の運びとなった。名称にもあるように平均年齢はとうに七〇を越えている。ワープロ経験者、パソコンを触った人、また初心者の面々である。まずは文字入力からだ。それらの変換・移動・貼り付け・挿入・削除・図の構成等である。我等にとつてすべてが難関である。先生の言うことに耳を傾け、目を皿にしてキーを打つのだがディスプレイには教えられたような文字や図が一度や二度では出てこない。しま

に、目はチカチカ、肩まで凝ってくる始末である。それだけに出来たときの喜びは万歳をしたような気持ちである。ワードが一段落すると次はインターネットを勉強する予定である。七〇を過ぎて新しい世界が開けることはこの上もない喜びであるが、これもまた一筋縄ではいくまい、先生の手をあまりわずらわせないように、予習、復習をしっかりやって臨みたいものである。



善意の寄付も「あいがとう!!」(善意銀行預託)

平成19年6月1日～平成19年10月31日まで(期不同・敬称略)

物 品

菅谷 泰子	そうせん
入江ゆかり	使用済切手
(株)笠間ソフトメン機本館	ソフトメン250食、焼きそば970食
塚本産業(株)	使用済切手
青森はるみ	使用済切手
笠間幼稚園PTA	使用済切手234枚、書き置き用紙8枚、使用済テレフォンカード19枚
笠間公園館	使用済切手
有限会社清水工務店	使用済切手
飯村 七重	夏祭り、毛布、タオルケット、バスタオル等
茨城県ガールスカウト第8団	アルミブルタブ 1箱
山口 菊江	靴オムツ、座布団パット、リハビリパンツ
井川 繁子	ブルタブ、看護デケット(100枚)
青森会笠間支部	使用済切手 1,212枚
カトレヤ	使用済切手
茨城県消防公署消防団笠間支部	タオル250本
谷中 信也	使用済切手
赤山スポーツ	使用済切手
伊藤石村工業	使用済切手
棚村ふみ江	そうせん
棚田 文雄	使用済切手
(株)鈴田製材所	使用済切手
昭和17年度笠間市立高等学校卒業 県会一育	靴オムツ
茨城県立友部高等学校	ブルタブ17枚、使用済テレフォンカード18枚、使用済切手362枚
大沢下長生会	綿巾33枚、タオル37枚
ボランティアサークルありんこ	使用済切手、ハガキ20,000円分、ハガキ80枚、切手163枚
きもの イナモト	使用済切手3,060枚
平塚 幸雄	車椅子1台
茨城県立友部高等学校卒業 県会一育	タオル192本
田村 征夫	ハガキ72枚
竹内 勝男	切手、使用済テレフォンカード
廣澤 幸一郎	使用済ハガキ50枚、未使用ハガキ40枚
笠間市立病院	使用済切手
菅谷 正子	使用済切手多数
菅谷 真吉	靴オムツ
石田 好一	靴多数
田口 サカエ	切手大板
インターバック株式会社	弁当箱800個、みそ汁1500個
富田 昇	靴多数
橋田 敏	靴オムツ多数
茨城県消防公署消防団笠間支部	タオル100本
藤岡 正夫	米30kg
工藤 正巳	使用済切手200枚、使用済テレフォンカード38枚など
佐藤 朝江	使用済切手
鈴木 好吉	使用済切手多数
下安原防火クラブ	ブルタブ多数

道口 久徳	ハガキ50枚、使用済切手多数
池田 正	米30kg
(株)台気会茨城支店	使用済切手
匿名	書き置きハガキ
匿名	使用済切手、5枚
匿名	靴オムツ 3枚
匿名	リハビリパンツ2個
匿名	大なべ
匿名	梅干
匿名	タオル、下着類

金 銭

笠間カラオケ協賛会	14,800円
笠間緑の会	32,736円
笠間消防門前通り おかみさん会	4,040円
水戸地方ハイヤー連盟	30,000円
ア6-1区 白木組	6,062円
バシフィックススポーツプラザ	1,775円
笠間市日中友好協会	10,000円
グレートボール連合会	17,951円
日本福祉協会笠間支部	19,788円
笠間市体育協会 スポーツダンス部	20,000円
フリーマーケット はちみつ倶楽部	3,000円
昭和17年度笠間市立高等学校卒業 県会一育	79,862円
友部体育協会	3,904円
大沢下長生会	6,473円
高野 マチ子	20,000円
柏井野球クラブ	3,000円
笠間市友部ドッジボールスポーツ少年団後援会	6,439円
笠間市友部ドッジボールスポーツ少年団	4,968円
野口 貴	200,000円
チャリティーデパート2007年とくまの会	33,422円
金木 興治	2,000円
北川根支店 豊利り売上金の一部	1,504円
結城信用金庫	100,000円
笠間市チャリティーゴルフ大会実行委員会	171,474円
橋村 孝	4,765円
真田寺そば会	19,412円
バザー夢工場	150,000円
道辺商店	7,810円
(株)台気会茨城支店	40,026円
赤津 ひで(故人)	20,000円
松山 久恵	10,000円
匿名 12件	50,425円

あ げ が き

3市町の社会福祉協議会が合併して1年余り経ちました。今回は、局長および各支所長にご出席をいただき、合併後の感想や、今後の抱負などについて話し合われたことを特集しました。

望ましい笠間市社協になるまでには時間を要しますが、その時期の早いことを願ってやみません。

(吹野)



水戸ヤクルト販売(株)様より笠間市社会福祉協議会へ車いす8台が寄贈されました。この車いすは日常生活に支障がある高齢者、障害者等に貸出しをいたしますのでご利用ください。

寄贈に感謝